

令和3年度 地方公共団体及び事業者等による食品ロス削減・食品リサイクル推進モデル事業

「eco-wa-ring KAWASAKI」最終報告書

2022年2月28日

川崎市環境局

- ① 事業概要
- ② 活動実績と成果
- ③ 活動の効果測定
- ④ 総括

- ① 事業概要
- ② 活動実績と成果
- ③ 活動の効果測定
- ④ 総括

■ 事業理念

家庭の生ごみで堆肥を作る⇒野菜が育つ⇒作った野菜を食べる大切な資源を無駄なく使う、循環の輪を作る、そして大きくしていく。川崎市民が主体となって、食循環の輪を作るプロジェクト。「eco-wa-ring KAWASAKI」を通じて参加者の食リサイクルへの意識を変えたい。

■ 事業目的

①『栄養循環の創出プログラム』

食資源循環/食品リサイクルを目的とし、市内の家庭から排出される生ごみを、各家庭で生ごみ処理機（コンポスト化容器等）を用いて堆肥化。できた堆肥を市内の農園等で活用し、「フードサイクルの実現」を目指す。

②地域が主体となり『自走』を目指す活動

企業や市が主体となる「自活型」と農園を中心とした地域住民で形成する「共助型」の2つのフードサイクルの実現を目指し、各フードサイクルに関わる、農園、堆肥提供者、自治体および企業等が情報を連携させる“循環”コミュニティの創出を図る。

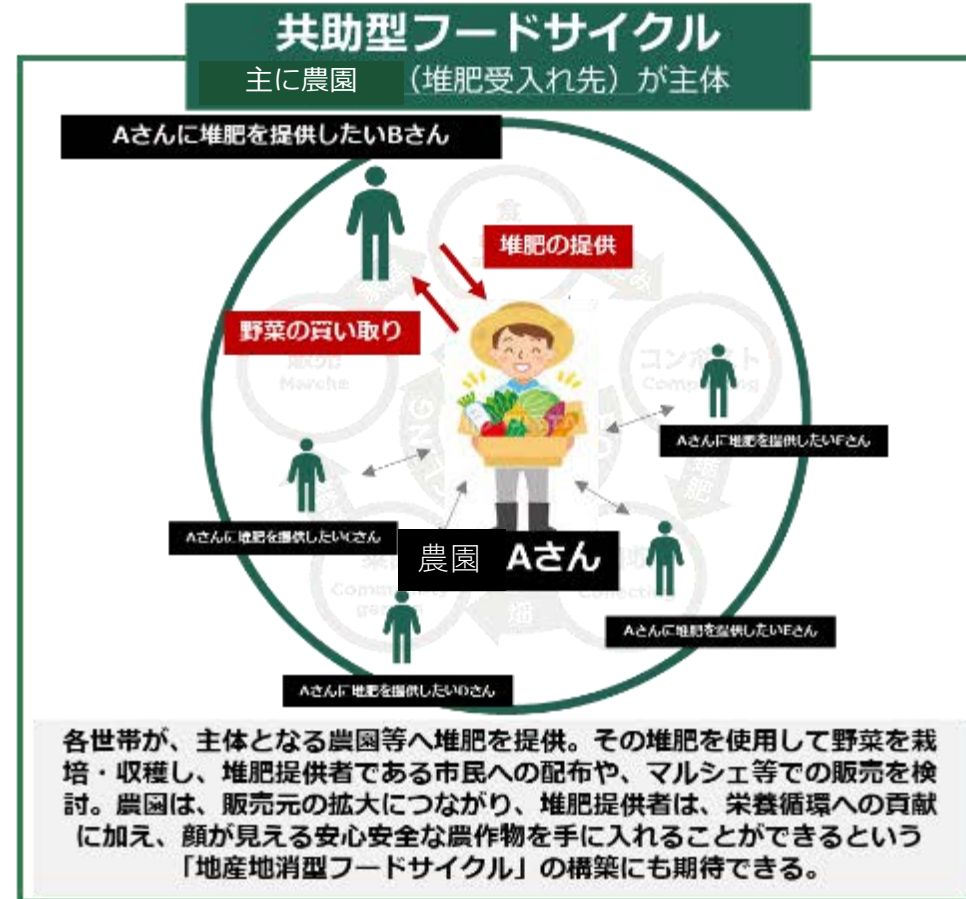
③創出と自走の実現により、日本社会全体に意識向上を促す

川崎市の特性を活用した、都市型の食品リサイクル/食資源循環モデルの見本を創出し、他地域へも展開を図り、日本社会全体の資源循環の意識向上・行動促進を加速させたい。

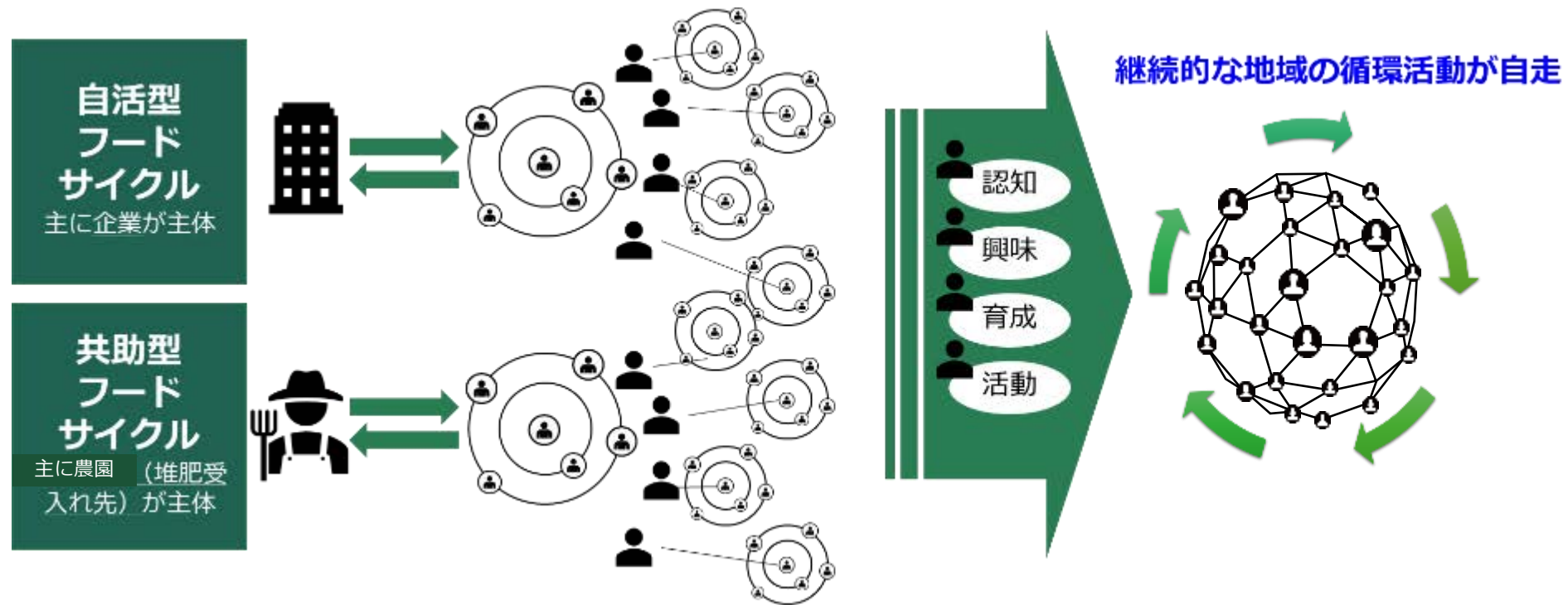
自活型と共助型のフードサイクル構築



想定エリア：高津区や中原区等の中心都市部。



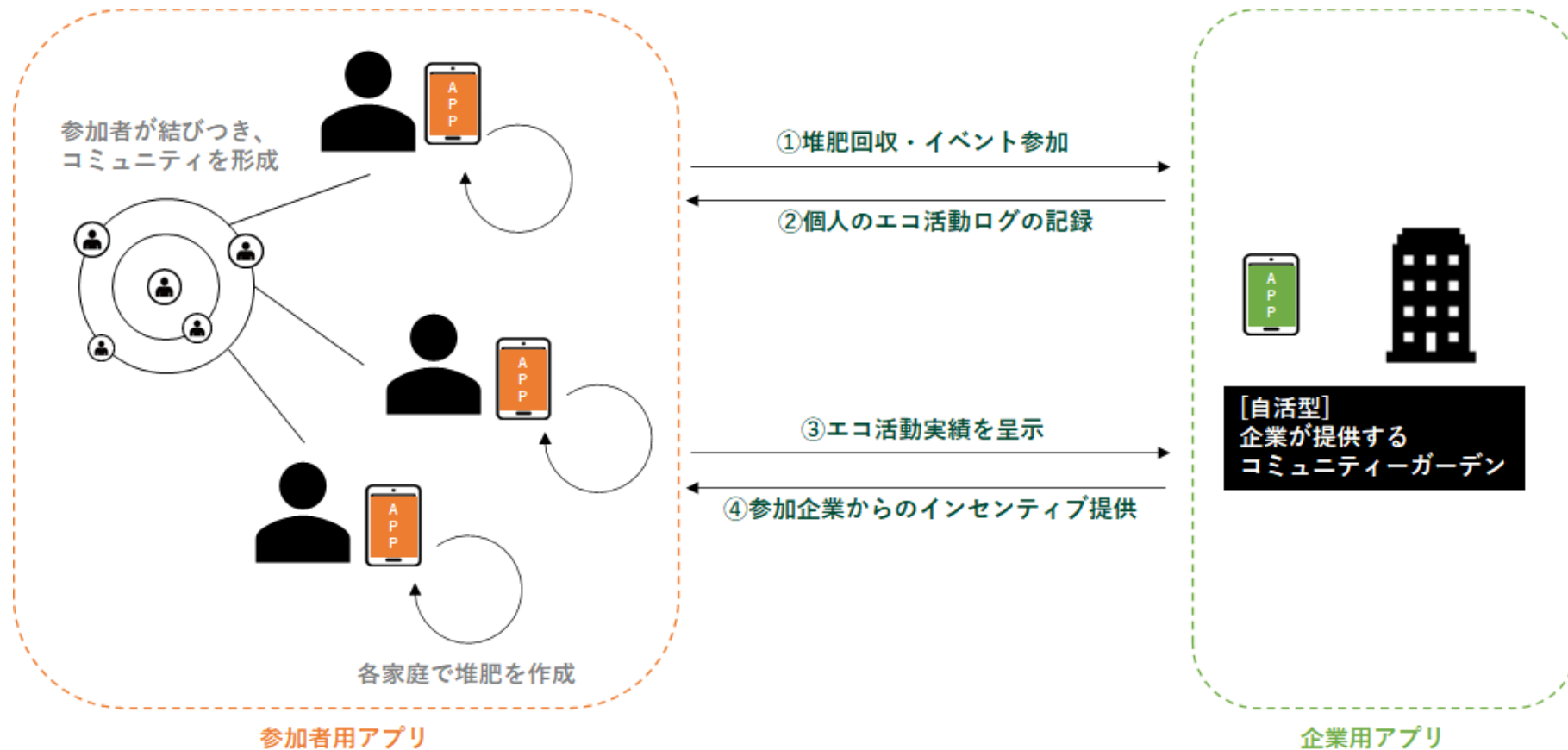
想定エリア：川崎市内の協力農園等を中心とした市全域。



4

自活型、共助型フードサイクルの取組を通じて、
フードサイクルに関わる地域住民・農園・企業の連携を確立。
また食循環体験機会、体験人数の拡大、栄養循環意識向上講座等による
資源循環および環境改善の知識提供等による**人財育成**を図る。
地域の栄養循環活動の拡大および活動の**「自走」**を促す基盤づくりを行う。

事業内容③



個人のエコアクションが可視化・評価され、次のアクションを促すプラットフォームを構築。
参加者の活動におけるモチベーション醸成に活用。また、サービス主体となる行政にも
民間にも個人情報や預けない、パブリックブロックチェーン技術を用いた
新しい仕組みの有効性を他の自治体に先行して実証。

「エコワリング」プロジェクトのフレームに各社が役割を担ってプロジェクト推進を実施



〈主な役割〉
責任統括、農園・堆肥回収拠点・コミュニティガーデン等の場所の確保、その他調整業務等



〈主な役割〉
事業の運営および推進、協賛社獲得業務、公式SNSの運営管理、コスト管理等



〈主な役割〉
ガーデン運営、農園管理、人財の育成、コミュニティ運営等



〈主な役割〉
事業に関する広報業務、専用LPの作成等

〈協力パートナー〉

**自活型
フード
サイクル**

みぞのくち新都市開発（株）、（株）丸井、東急（株）等とフィールドの確保を検討。当事業を継続的な取組にしていくための協賛企業、協力企業についても募集予定。

**共助型
フード
サイクル**

福祉交流農園、はぐるま稗原農園、野菜大好きファームが堆肥受入を承諾済み。その他、フィールドも随時調整中。

- ① 事業概要
- ② 活動実績と成果
- ③ 活動の効果測定
- ④ 総括

活動実績と成果（自活型フードサイクル①）

	武蔵小杉東急スクエア	ヨネツティー王禅寺
実施期間	2021年7月10日～12月31日	2021年7月17日～12月31日
募集人数（応募人数）	10名（応募人数55名）	親子15組（応募人23組）
実施人数	8名	親子9組
実施内容 （参加人数）	<ul style="list-style-type: none"> ・オープニングイベント：参加人数8名 ・初めてのコンポスト講座：参加人数17名（フォロー講座受講者含む） ・秋植えのためのzoomや小規模菜園イベント：8名（内2名はオンライン参加） ・堆肥の相談回収会 / 個別フォロー：10名 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープニングイベント：参加人数17名 ・初めてのコンポスト講座：参加人数17名 ・秋植えのためのzoomや小規模菜園イベント：20名
収穫野菜	セージ、ラディッシュ、レモングラス、パクチー、ミニトマト、空心菜、バジル、ミックスリーフ、えごま、スイスチャードなど。	ミニトマト、なす、ピーマン、ルッコラ、ニンジン、ラディッシュ、パッションフルーツ、ブロッコリー、かぼちゃなど。
コミュニティの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話日数 のべ数： 101日（111名） ・LINEコミュニティやりとり のべ数：1055コメント ・コミュニティ内画像 のべ数： 457枚 	<ul style="list-style-type: none"> ・お世話日数 のべ数： 64日（64名） ・LINEコミュニティやりとり のべ数： 609コメント ・コミュニティ内画像 のべ数： 260枚
	・インスタグラムでの#エコワリング川崎をつけたもののべ 29枚/911いいね（東急+王禅寺の合計）	
持ち込み堆肥量	約160kg	約160kg

-----まとめ（課題▲・機会○）-----

▲コロナ感染拡大に伴い、目標50世帯以上での展開を目指したが、2拠点計で17世帯の展開に留まる。

▲武蔵小杉東急スクエアに関して、施設の立地は非常に良い反面、活動可能な場所が狭く活動人数の上限に限られる。

▲市民への公平性を鑑み、参加者を拠点近隣住民に限定することなく公募したが、拠点から遠い住民の参加意欲は上がらなかった。

○募集人数（2拠点計25名）に対し、応募人数（78名）が大きく上回ることから、活動理念が市民の期待と合致していることがわかる。

○LINEコミュニティにおいて、1日約10件の投稿がある等、拠点を軸としたコミュニティ形成に寄与できたと実感。

○少ない日数の中で、多くの収穫物を得て、参加者に生ごみ→堆肥→収穫といった“食循環”を体現させることに貢献。

活動実績と成果（自活型フードサイクル①：オープニングイベント）

東急スクエア武蔵小杉ガーデンの オープンイベント



- 実施日 : 2021年7月10日（土）
- 実施場所 : 東急スクエア武蔵小杉
- 参加人数 : ガーデン参加者 8名
※ガーデン参加者の内、イベント参加が可能な方のみで実施。
- 備考 : 地元メディア数社の取材と、企業の方が視察に
来られ強く興味を持たれていた。

ヨネッティ王禅寺ガーデンの オープンイベント



- 実施日 : 2021年7月17日（土）
- 実施場所 : ヨネッティ王禅寺
- 参加人数 : ガーデン参加者 ファミリー6組（17名）
※キッズガーデンのため、全参加者がご家族で参加。
- 備考 : 日本経済新聞社など、全国的なメディアが取材に
来訪し、注目度も高かった。

活動実績と成果（自活型フードサイクル①：たい肥相談回収会）

11/20(土) 東急スクエア武蔵小杉ガーデン

《プログラム》

- ①参加者自己紹介
- ②コンポスト実践！の感想発表
- ③Q&A
- ④講話（循環型社会について、土のカ、コンポスト実践のコツ等）



「熟成中の土」(右)と「熟成済みの乾燥した堆肥」(左)ではこれだけ色が違う！



●参加者からの声（一部）

武蔵小杉のまちで、
**「土」「自然」に触れられる場が
なかなか無い**

・未来の子供たちの地球、環境のためにできることとして、コンポストはとても良い。
**もっとうこういう仕組み、
場が広がると良い！**

・**こどもと一緒に自由研究の
題材として学べる！楽しい！**

・**コンポストのおかげで、
日々の楽しみがまた1つ増え
た！**（うまく熟成してるかな？とかき混ぜたり、土を育てている感覚）

活動実績と成果（共助型フードサイクル）

- ・実施期間 : 2021年6月1日～2022年1月31日
- ・実施内容 : 市内8か所の提携農園にて堆肥回収BOXを設置し、市民への食循環参加醸成を促す。
期間中、提携農園にて市民参加型のイベントを実施。（参加者70名）
- ・堆肥回収量 : 約323kg（詳細は後述）
- ・参加人数（推計） : 560人～754人
算出根拠① : @70人×8か所 = 560人
算出根拠② : 福祉交流農園イベントでの参加人数が70人。また同農園での堆肥回収量が約30kg。
 $70人 \div 30kg = 2.33333$ ←堆肥1キロあたりの参加人数
 $2.33333 \times 323kg = 754$

■まとめ（課題▲と機会○）

- ▲参加者の自発的な取り組みに委ねる活動なので堆肥提供者（参加者）の属性把握が困難。
- 目標KPIとして掲げていた500世帯以上の参加は達成できた。
- 活動意義が提携農園から共感を得られ、活動継続が期待できる。
- 農園の近隣住民からの参加・継続意欲が高く、継続的な野菜購入が期待できる



活動実績と成果（共助型フードサイクル）

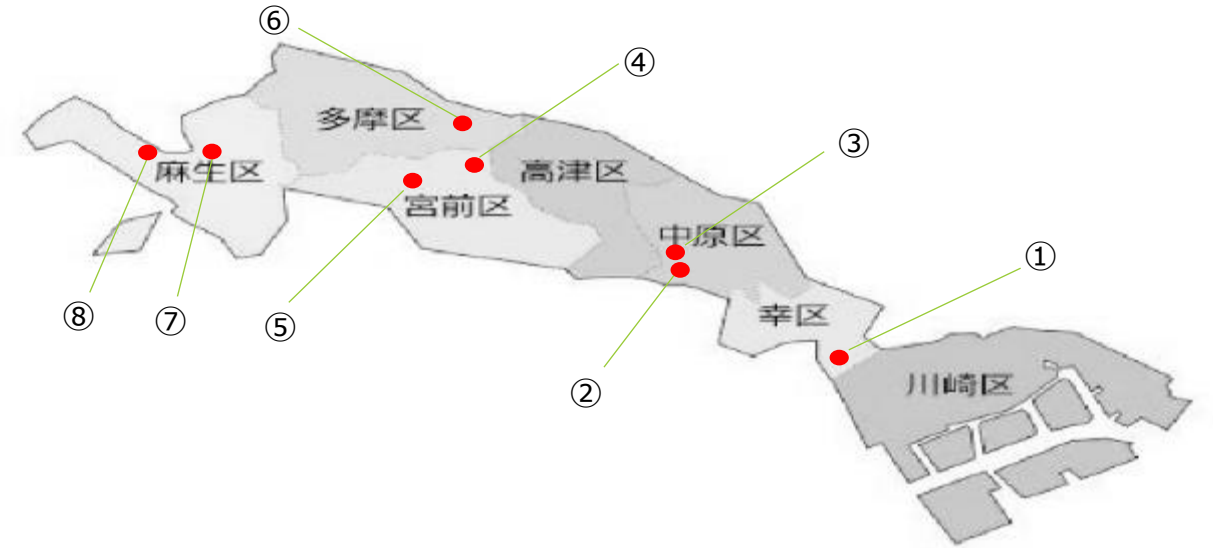
川崎市

共助型農園（堆肥受け入れ場所）	所在地	回収堆肥量（kg）
環境を考え行動する会	麻生区片平 5 - 3 1 - 1	約 5 5 kg
福祉交流農園	中原区井田中ノ町 7 5 1	約 3 0 kg
トカイナカヴィレッジ（松本傳左衛門園）	多摩区東生田 4 - 1 - 6	約 1 8 kg
社会福祉法人はぐるまの会	宮前区水沢 2 - 1 0 - 2	約 4 0 kg
新川崎ふるさとづくりの会	幸区新川崎 7（さいわいふるさと公園内）	約 1 8 0 kg
社会福祉法人セイワもえぎの丘	中原区井田 3 - 1 4 - 1	
野菜だいすきファーム	宮前区菅生 6 - 3 4	
ヒサマツ自然農法の会	麻生区東百合丘 2 - 2 0 - 2 7	
計		約 3 2 3 kg

活動実績と成果（共助型フードサイクル） 参考

【共助型活動状況】

市内農園等 8 か所にて受け入れを行っている。



実施期間 : 2021年6月1日～2022年1月31日

実施内容 : 市内8か所の提携農園にて堆肥回収BOXを設置し、市民への食循環参加醸成を促す。
期間中、提携農園にて市民参加型のイベントを実施。（参加者70名）

堆肥回収量 : 約323kg（詳細は後述）

参加人数（推計） : 560人～754人

算出根拠① : @70人×8か所=560人

算出根拠② : 福祉交流農園イベントでの参加人数が70人。また同農園での堆肥回収量が約30kg。

$70人 \div 30kg = 2.33333$ ←堆肥1キ口あたりの参加人数

$2.33333 \times 323キ口 = 754$

活動実績と成果（共助型フードサイクル：収穫・マルシェイベント）

収穫体験・コンポスト講座・加工品や収穫野菜のマルシェ・コンポスト展示を実施。

お子様と一緒にご家族を中心に約70名がイベントに参加。イベントを機にエコワリングに参加する方も多数。

11/27(土)福祉交流農園@川崎市



LP(ランディングページ)による告知と誘因



<https://eleminist.com/lp/eco-wa-ring-kawasaki>

オウンド・SNS・メディア露出各種活動



【LP概要】

- ・プロジェクト紹介をベースに
イベント告知・報告など臨時情報を月2回程度更新。
- ・6月～12月15018PV
月平均2100PV 男女比4:6

【Instagram公式アカウント】

- ・9月～12月 40投稿 1534リーチ
(1月20日現在 44投稿 2336リーチ)
- ・フォロワー数95 (1月20日現在)

活動実績と成果（広報・各社リリース）

あなたも「eco-wa-ring Kawasaki」（エコワリング川崎）のメンバーになりませんか？

ライターへのリンクは別ウィンドウで開きます ツイート 2021年11月4日
コンテンツ番号129731

■目的

川崎市、株式会社電通、ローカルフードサイクリング株式会社、株式会社トラストリッジとともに、市内の家庭から排出される生ごみを各家庭で生ごみ処理機（コンポスト化容器等）を用いて堆肥化し、できた堆肥を市内の農園等で活用し、安心安全な野菜を作り、食すというフードサイクルを実施し、また自分のエコ活動を可視化し、活動に応じてインセンティブが付与される事によりフードサイクルを活性化する「eco-wa-ring Kawasaki（エコワリング川崎）」を立ち上げます。

この取組は、環境省「令和3年度地方公共団体及び事業者等による食品ロス削減・リサイクル推進モデル事業」[外部リンク](#)に採択され、実施するものです。

■eco-wa-ring フードサイクルの種類

▶ 自活型フードサイクル

自活型フードサイクルは、主に企業が主体となって一般市民から参加者を募集し、参加者が家庭から排出される生ごみをコンポストなどで堆肥化し、作った堆肥を持ち寄り、コミュニティガーデン（第1弾として武蔵小杉東急スクエア等で実施予定）を共に管理しながら、野菜を育て食すといった、体験型フードサイクルになります。なお、参加費（3,300円税込み）がかかりますが、特典としてLFCコンポスト[®][外部リンク](#)をプレゼントします。

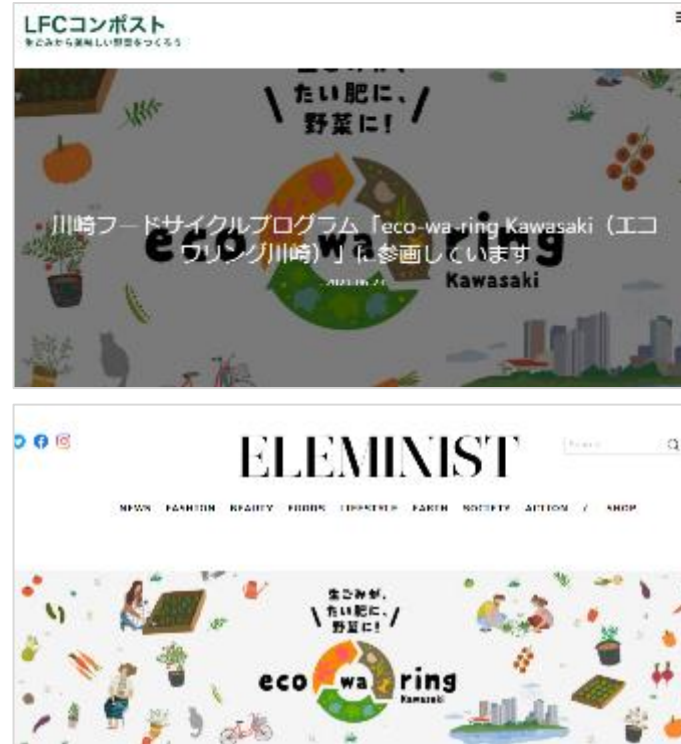
▶ 共助型フードサイクル

共助型フードサイクルは各世帯が自宅で生ごみ堆肥へ取組、主体となる農園等へ堆肥を提供します。提供後、その堆肥を使用して野菜を栽培・収穫し、マルシェ等での販売を予定しています。農園は、販売元の拡大につながり、堆肥提供者は、栄養循環への貢献ことができ、顔が見える安心安全な農作物を手に入れることができると「地産地消型フードサイクル」の構築にも期待できます。

■具体的な取組

自活型フードサイクルの取り組みの第1弾として、「武蔵小杉東急スクエア」、「ヨネツティヤ王禅寺」で自活型フードサイクルを開始します！内容としては、参加者を募集し、参加者が家庭で作った堆肥を持ち寄り、それぞれの場所で、コミュニティガーデンを管理しながら、野菜を育て、食べます。

詳しくは、[プロジェクトサイト](#)^{外部リンク}をご確認ください。



本事業は、環境省「令和3年度地方公共団体及び事業者等による食品ロス削減・リサイクル推進モデル事業」に採択され、実施するものです。

【イメージ動画】



活動実績と成果（広報・プロジェクト啓発等）

<掲載メディア>

神奈川新聞
日本経済新聞
多摩区民ニュース
みやまえぽーたろう
カナロコ
環境展望台
タウンニュース
Yahooファイナンス
Excite ニュース
BtoBプラットフォーム 業界CH
トレーダーズウェブ
環境ビジネスオンライン
Biz Zine
Digital Shift Times
秋田魁新報電子版

AGARA紀伊民報
アドバンストマスメディア
ASCII.jp
千葉日報
WEB東奥
Prtimes
SDNmagazine
J-Castトレンド
GOLDPAY
Circular Economy Hub
梅田経済新聞
TAKIBLOG
WEB電通報
Cococolor
TeamSDGs
ELEMENIST
TVK

地域で栄養循環コミュニティをつくる「eco-wa-ringKawasaki（エコワリング川崎）」ウェビナーレポート

サーキュラーエコノミーを実現する新たな連携とビジネスの可能性

news every. PR TIMES ASCII STARTUP excite ニュース

- 日本経済新聞等のメディア（約30媒体）に活動内容の告知を実施。
- イメージ動画を川崎市Youtubeチャンネル（約1000回再生）、市内のビジョンで公開（想定リーチ数10万人）。
- ELEMENIST/Cococolor/TeamSDGsなどSDGs系のWebメディアで活動紹介記事を連載。

- ① 事業概要
- ② 活動実績と成果
- ③ 活動の効果測定**
- ④ 総括

申請書に記載した以下のゴールおよび効果項目について、申請書記載の検証方法に基づき効果を検証する。

●令和3年度のゴール（目標）

自活型50世帯、共助型500世帯との取組実績による、来期以降の礎となる栄養循環と自走プログラムの基盤の構築。

●効果指標

【効果①】 焼却ごみ量およびCO2の削減

- 当初の目標推計値：焼却ごみ量年間38,978.35kg

【効果②】 市民に対する環境（資源循環）意識の向上

- 参加者550世帯と30万人への情報訴求
- 生ごみ堆肥への取組を行うことで、他のごみ分別率向上にも寄与（アンケートによる検証）。

【効果③】 食循環（食品リサイクル）の自走機会の創出

- 人財育成、次期リーダーを育成することで市民の自発的な栄養循環の創出を図る（講座実施回数および講座後の感想アンケート調査による意識変革の検証）

【効果④】 資源循環活動を軸とした地域コミュニティの創出および活性化促進

- 専用ウェブサイトを設けることによる、継続した広報発信（専用ホームページのPV数）

【効果⑤】 協賛および協力企業の参画を目指す

- 30社以上を目標に当事業について説明し、理解醸成

申請書より再掲（抜粋）

令和3年度ゴールに対する効果と考察

■ 想定KPIに対する推移

- ・ 計画 自活型：50世帯以上の参加 共助型：500世帯程度の参加
- ・ 結果 自活型：17人（但し、**申し込みは74人**） 共助型：**560～750人※**

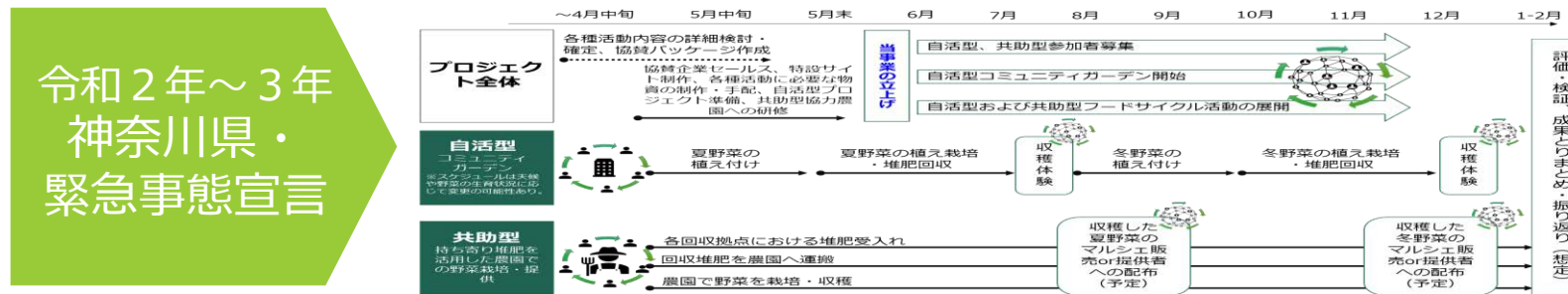
※推計算出上、結果は世帯ではなく人で計算していますが、活動自体は世帯での参加が非状に多い。

■ KPI非到達に対する改善策・方針

コロナ感染拡大に伴い自活型の新規拠点確保を断念。

その為、積極的な活動広報を図り、多くのメディアにて活動紹介を獲得。（後述）

LFCコンポスト**新規購入者で144人（市内在住のみ）**を獲得し、参加世帯拡大に貢献。



コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言等が起因して当初計画の見直しが必要となった。特に不特定多数の人流が予想されるイベントおよびソーシャルディスタンスの確保がしにくいリアル体験を伴った体験価値（自活型）の創出がはばかれたことが起因して、積極的な参加者拡大（主に新規の自活型拠点の確保）を断念せざるを得なかった。それでも東急ならびに王禅寺での自活型拠点による参加者の積極的な姿勢を鑑み、市民に対して“きっかけ”さえ与えれば積極的かつ“自主的”に活動できる可能性が見いだせたと実感。

効果指標①：焼却生ごみ量

- ・自活型

447 g (1人1日あたりのごみ量) × 23.6% × 17人 = 1793.36 g (17人1日あたりのごみ量)

1793.36 × 365日 ÷ 1000 g = 654.58kg

- ・共助型

447 g (1人1日あたりのごみ量) × 23.6% × 560人 = 59075.52 g (560人1日あたりのごみ量)

59075.52 × 365日 ÷ 1000 g = 21562.56kg

- ・その他

PJ開始以降で川崎市内在住のLFCコンポスト購入者144人

447 g (1人1日あたりのごみ量) × 23.6% × 144人 = 15190.85 g (144人1日あたりのごみ量)

15190.85 × 365日 ÷ 1000 g = 5544.66kg



当活動を通じて、**想推計値27761.8kg (年間)** の生ごみ量削減に貢献

効果指標②：市民に対する環境（資源循環）意識の向上

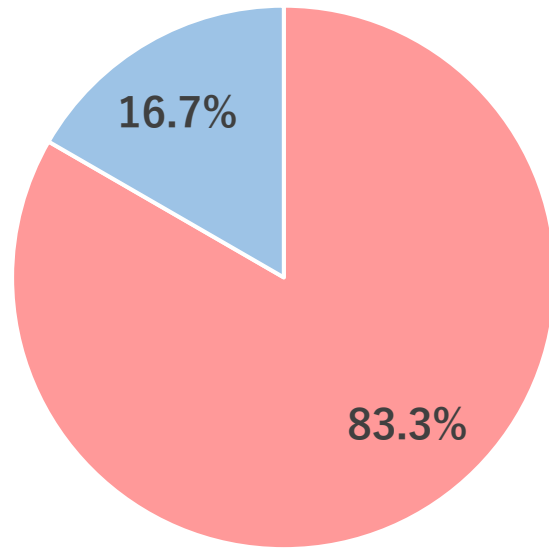
自活型コミュニティガーデン参加者を対象に下記調査を実施。

	プロジェクト全体アンケート	アプリ実証実験アンケート
調査目的	PJ全体の満足度やPJ参加による意識行動の変化を捉えることでPJの効果検証を行うこと	アプリを利用することによる参加者の活動への影響を把握することで実証実験の成果を明確にすること
対象者	自活型コミュニティガーデン2拠点への参加者17名	
調査期間	2022年1月20日-26日	2021年12月15日-26日
設問数	合計13問	合計18問

効果指標②：市民に対する環境（資源循環）意識の向上

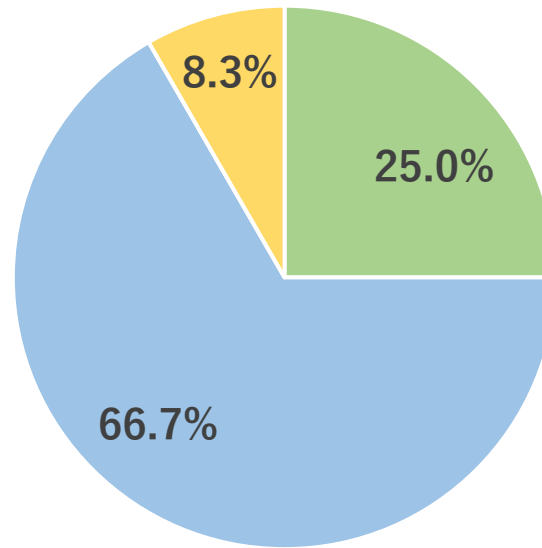
アンケート回答者の属性情報は下記。

性別



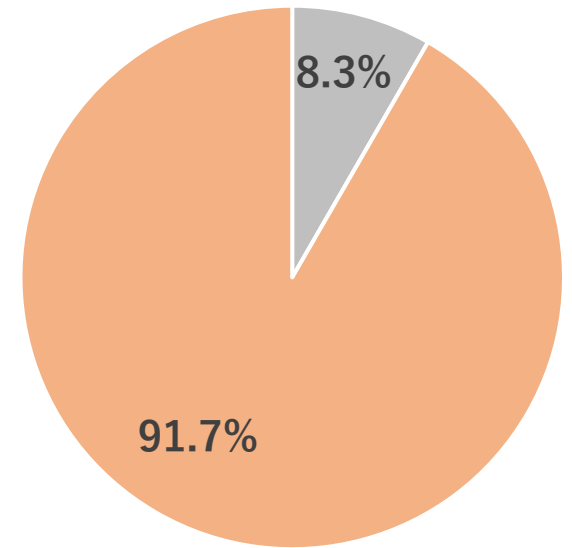
■ 女性 ■ 男性

年代



■ 30代 ■ 40代 ■ 50代

家族構成



■ それ以外 ■ 配偶者と子供

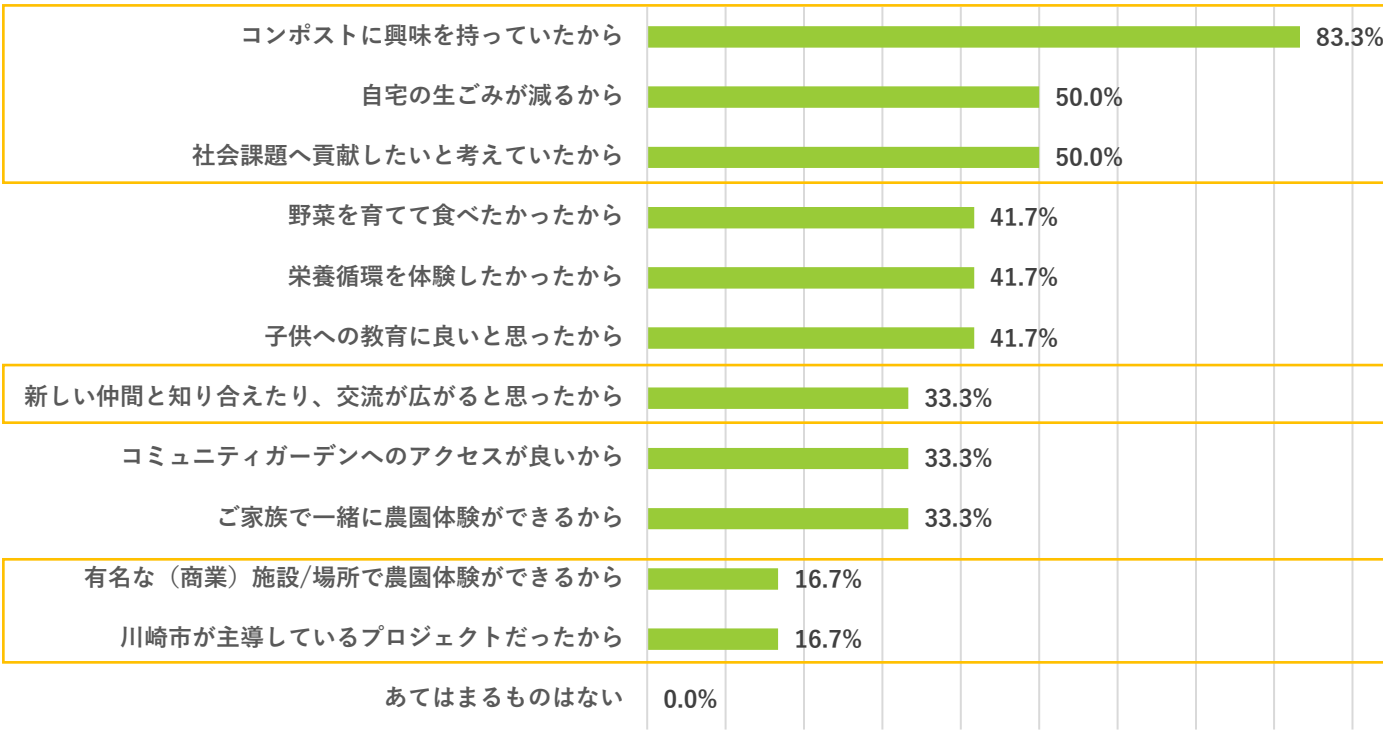
効果指標②：市民に対する環境（資源循環）意識の向上

参加理由としては「コンポストに興味を持っていたから」が8割超と最も多く、約3割が「参加者同士の交流」と回答。プロジェクトの参加を通して、周囲への推奨やプロジェクトの継続・拡大を求める声も多数。

参加理由 / プロジェクトへの考え

プロジェクトへの参加理由

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0%

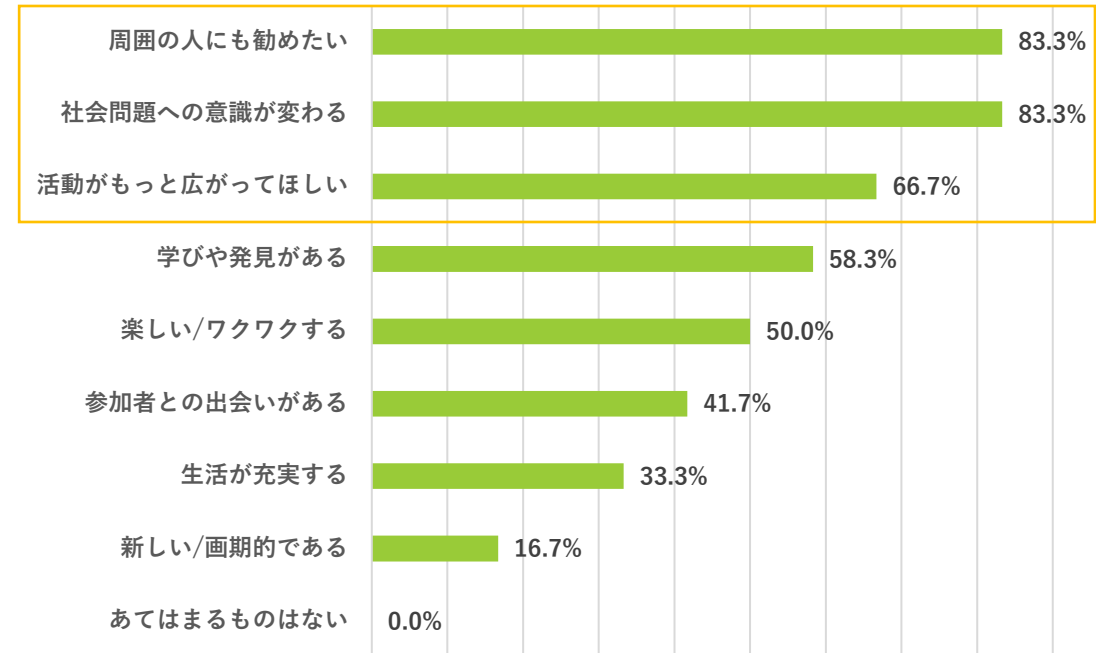


設問) 当プロジェクトに参加した理由を教えてください。

※参加者への実施後アンケート（調査期間：1月20日-26日）

プロジェクトへの今の考え

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0%



設問) このプロジェクトに対する今の考えをお知らせください

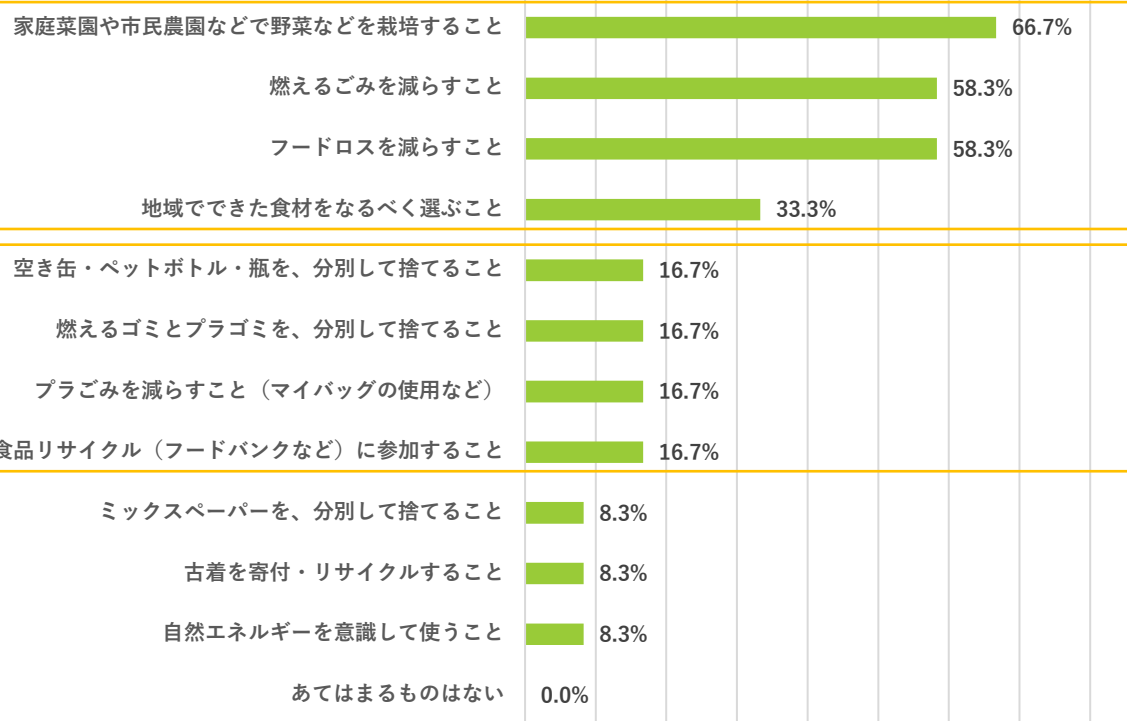
効果指標②：市民に対する環境（資源循環）意識の向上

プロジェクトをきっかけに、参加者の過半数がフードロスや食循環に関する行動を意識的に行うように変化。また、食循環に関わらず、ごみの分別やリサイクルなどの資源循環/環境保全全体への意識向上や行動喚起にも寄与。

意識・行動の変化

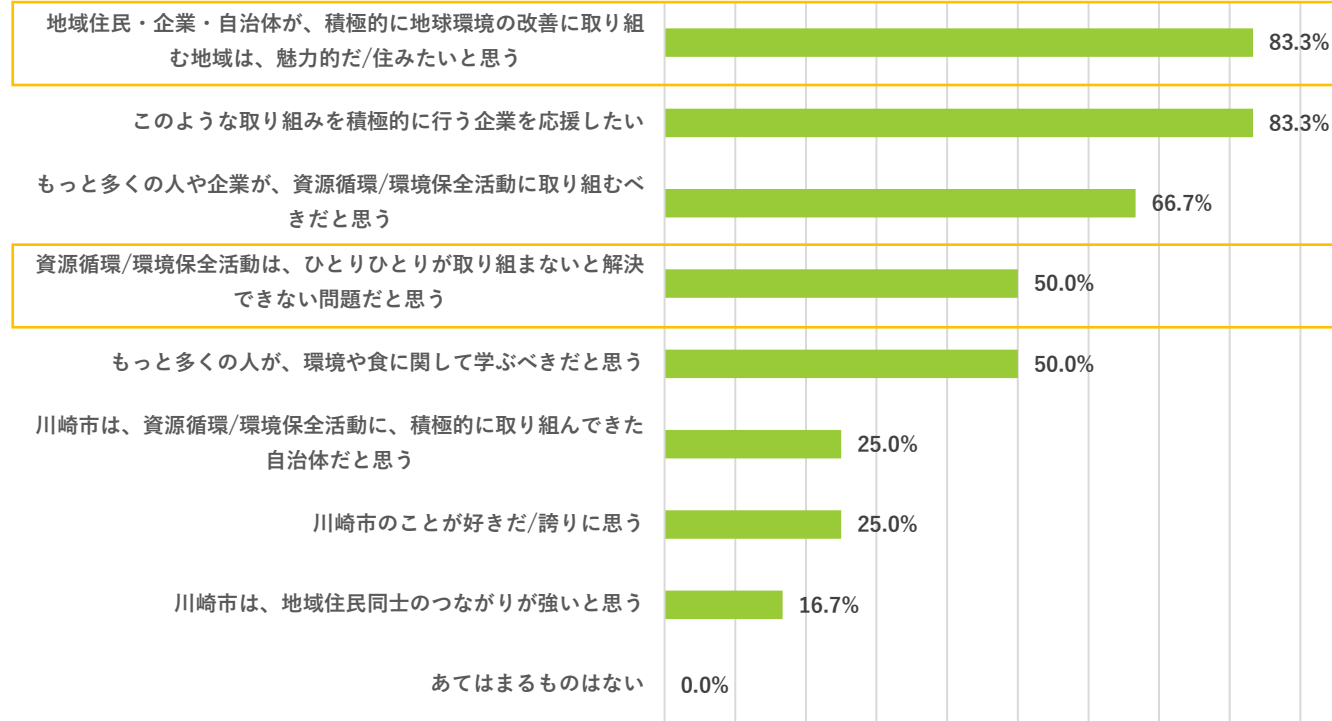
“プロジェクトをきっかけに”意識的に取り組むようになったこと

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0%



“プロジェクトをきっかけに”高まった意識

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0%



設問) このプロジェクトに参加してから、あなたが新たに、またはより意識的に、取り組むようになったことを教えてください。

※参加者への実施後アンケート（調査期間：1月20日-26日）

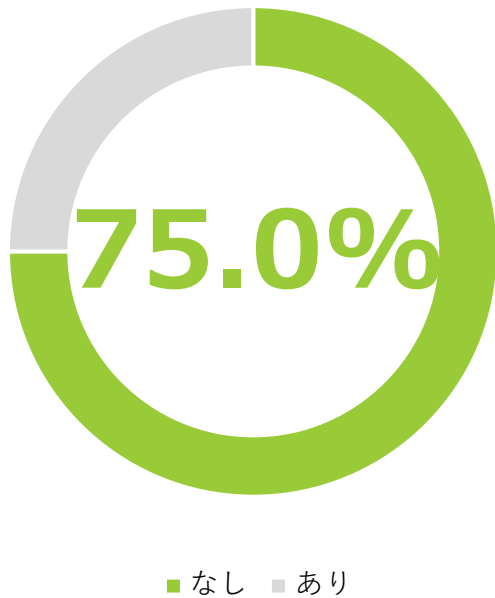
設問) このプロジェクトに参加してから、高まった意識としてあてはまることを教えてください

効果指標②：市民に対する環境（資源循環）意識の向上

参加者の**7.5割がコンポスト未経験者**の中で、プロジェクト全体の**満足度は7割弱**を達成。
 コンポストを通して自宅の生ごみが減ると**いう栄養循環の体験を家族と共感できたことが大きい要因**。
 また、**ガーデンのアクセスや連携施設も満足度に関係**。

プロジェクト全体における評価

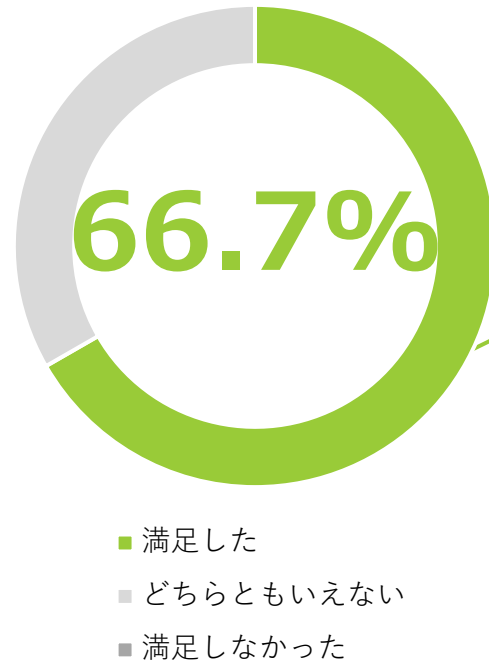
コンポスト経験有無



設問) 当プロジェクトに参加する前に、コンポストの経験はありましたか？

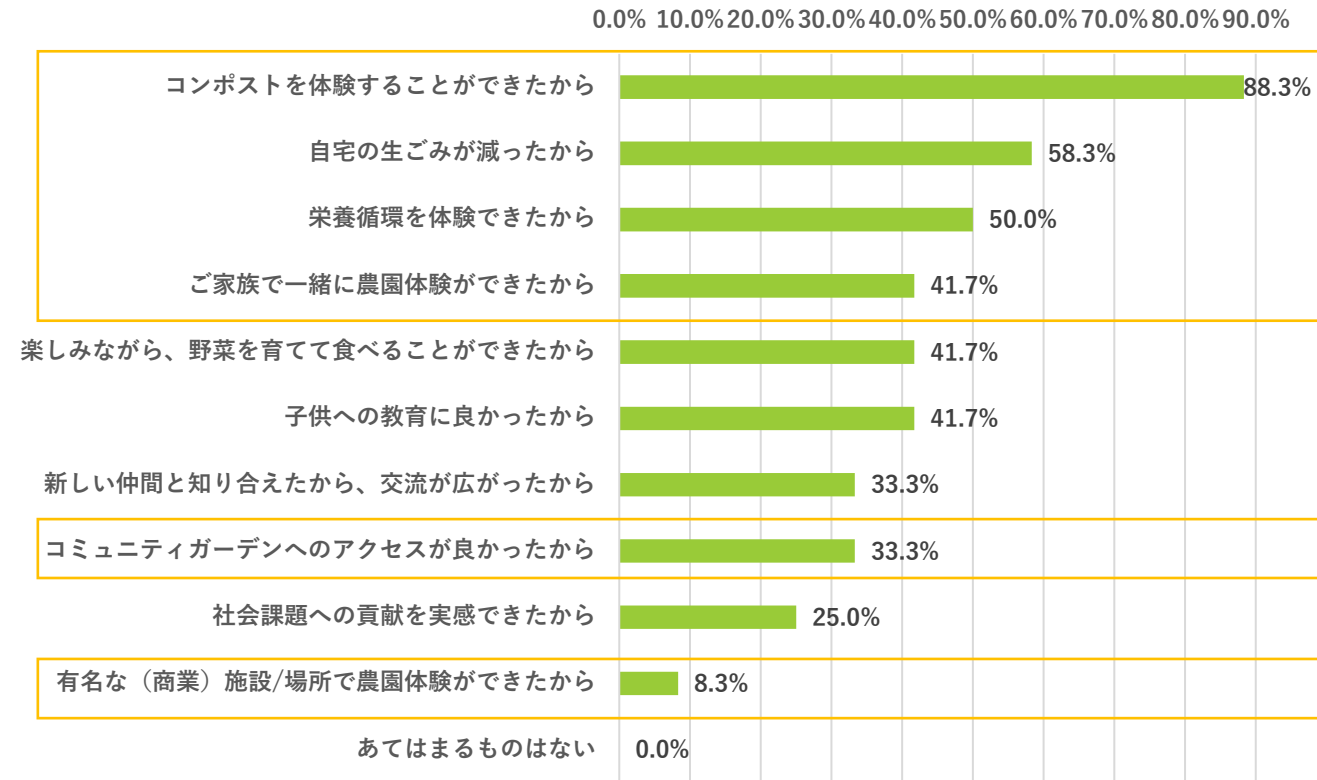
※参加者への実施後アンケート（調査期間：1月20日-26日）

プロジェクト満足度



設問) 当プロジェクト全体の満足度を教えてください。

満足した理由



設問) 当プロジェクトに満足した理由について教えてください。

効果指標②：市民に対する環境（資源循環）意識の向上

農園体験、食育、コンポスト体験など食循環に関する広い体験価値の提供を実現。
一方で、参加者同士の交流については、次年度以降の課題。

プロジェクト全体への感想/要望

性年代	コンポスト経験	今年度のDeco-wa-ring- Kawasaki における活動への感想やご要望を自由に教えてください（自由にお書きください）
女性40代	なし	コロナの影響もあり、他の参加者さんとLINE上での交流のみとなってしまったのが残念でした。また、LINEでの文章のやり取りではコンポストの状態や実際のお世話や種まきなどの細かい事がわかりにくく、モチベーションが下がることもありました。上の設問にも記載しましたが、個人でコンポストや家庭菜園など自宅のできる部分での活動企画があれば良いと思います。
女性40代	なし	プロジェクトのメンバーによって意識の違いがありすぎてついていけない時が多々ありました。特にLINEグループの使い方として、食事時に虫や汚物の写真が貼られてきたり、人によっては不快感を抱き、人によっては食育になる…。その辺りが難しいなと思いました。
女性40代	なし	コロナの影響もあったので仕方ないですが、参加者との交流の機会がもう少し欲しかったです。
女性40代	なし	コロナという大きな敵と戦いながら、土に触れる 自然を感じる体験学習はとても良かった。
女性40代	なし	友達に企画の趣旨を話すと、いい活動だね！とか、楽しそう～！などいい反応がありました。もっとこういう活動が増えたらいいなと思うし、広がったらいいな…と思います。小学校等でもSDGs活動を勉強したりしているけど、子供たちも勉強で学ぶよりも実体験で学んだ方が身になるし、実感出来る分大人になっても思い出として残るかなと思いますので、ファミリーで参加はオススメです。王禅寺が継続されるならまた参加したいです。
女性40代	なし	LFCの方や世話人のながこさんのLINEでの積極的な発言に好感を持ちました。野菜のお世話は車で行かなければいけなかったのですが、途中で遠慮させていただきましたが、徒歩圏内にあれば、参加したかったです。
女性40代	なし	とても楽しく参加させていただきました。ありがとうございます。コロナ禍で在宅勤務が続き、活動範囲も狭まり、気持ち的にも暗くなりがちな時期にみなさんとこの活動に参加できて良かったです。野菜やハーブのイキイキとした生命力や、可愛い緑たちに癒され日常が豊かになりました。
女性50代	あり	環境の大切さ、地域ぐるみの社会貢献について、同じ思いを共有する仲間、出会えたことは、貴重な体験でした。この地域に住んでいるのは今後も変わらないので、せつなくなつたので、何かしらの形で、プロジェクト終了後もつながっていただけると嬉しいです。
男性30代	なし	この度は貴重な機会をありがとうございました。コロナ禍でみなさんと直接会う機会が少なかったことだけが心残りですが、循環型社会や栽培のいろはまで多岐に渡り学べたのは非常にありがたかったです。また、娘も参加させることができ、人生初の豆撒きをするなど、自分以外の家族メンバーにとっても貴重な機会となったと思います。
男性40代	あり	より自然環境に近い、もう少し大きな場所で取り組んだ方が達成感も大きいし、集まりやすい。多品種より少品種をじっくり育て、成長を見守りたい。

設問) 今年度のDeco-wa-ring- Kawasaki における活動への感想やご要望を自由に教えてください

※参加者への実施後アンケート（調査期間：1月20日-26日）

効果指標②：実証実験結果_アプリ活動実績（参考）

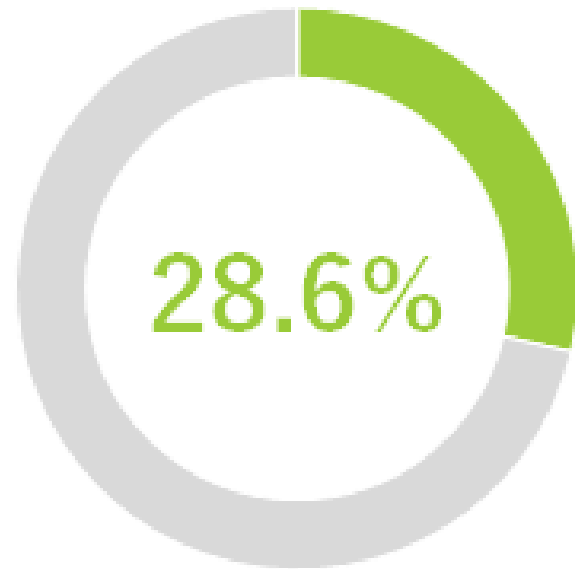
アプリ上で記録した活動実績は下記。

アクション		バッジ
堆肥をガーデンに持ち込む ※3か月に1回記録可能	合計3回	 1回達成：コンポスター 3名取得  2回達成：プロコンポスター 取得なし
植物への水やりや観察	合計46回	 1回達成：見習いファーマー 11名取得  2回達成：ファーマー 6名取得  5回達成：プロファーマー 2名取得
イベントへの参加 ※コロナの影響により1回のみ実施	合計1回	 1回達成：ハーベスター 1名取得  3回達成：プロハーベスター 取得なし
		 全バッジ獲得：エコワリスト 取得なし

効果指標②：市民に対する環境（資源循環）意識の向上（参考）

アプリ利用により**3割弱の参加者のエコ活動促進**につなげることができた。
コロナ禍によるオフラインの交流が困難だった中で、**1.5割弱の参加者のコミュニケーション量**の促進ができた。

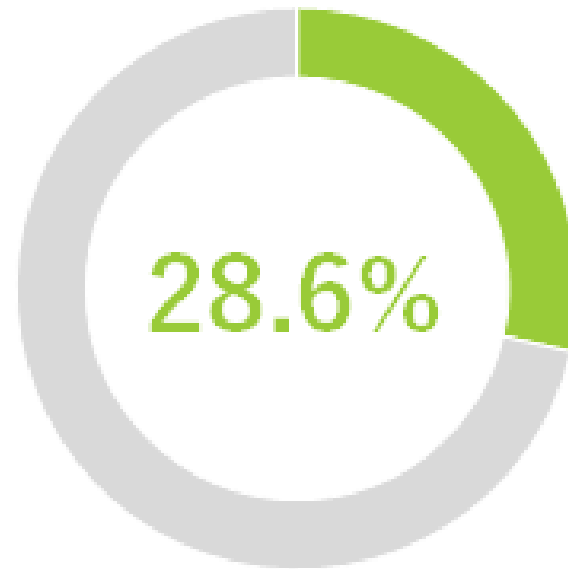
アプリ利用による
活動拠点に行く頻度の変化



■ 増加した ■ どちらともいえない ■ 減少した

※注）eco-wa-ring-Kawasakiアプリを利用したことにより、活動拠点（コミュニティガーデン）に行く頻度ほどの増減実行了しました。

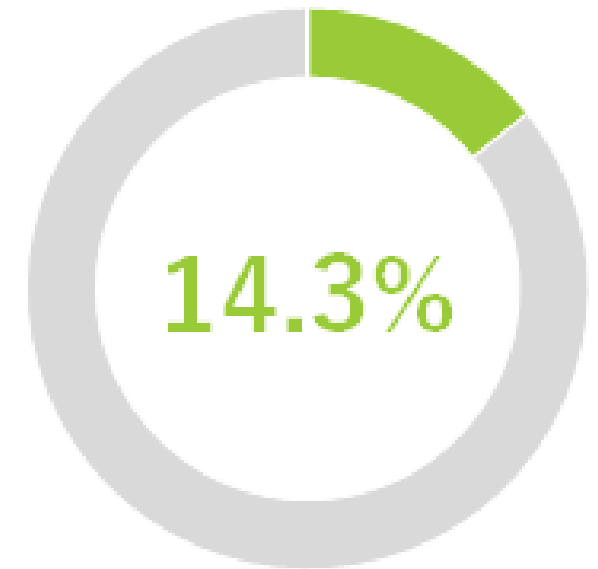
アプリ利用による
各種活動量（水やり、たい肥づくり等）の変化



■ 増加した ■ どちらともいえない ■ 減少した

※注）eco-wa-ring-Kawasakiアプリを利用したことにより、各種活動（ガーデンへの水やり、たい肥づくりなど）量ほどの増減実行了しました。

アプリ利用による
コミュニケーション量の変化



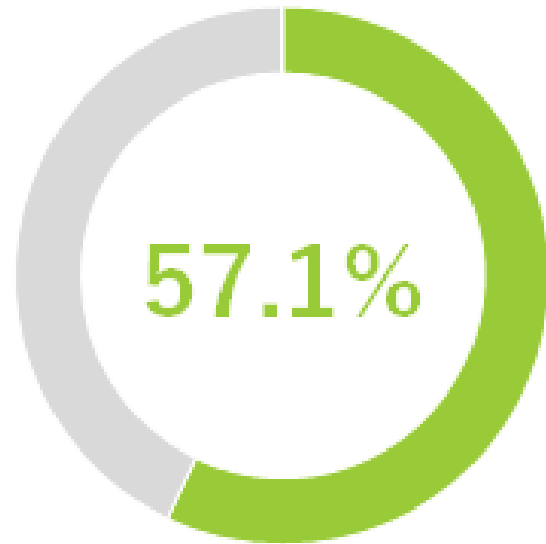
■ 増加した ■ どちらともいえない ■ 減少した

※注）eco-wa-ring-Kawasakiアプリを利用したことにより、参加者同士のコミュニケーション量（オンライン・オフライン問わず）ほどの増減実行了しました。

効果指標②：市民に対する環境（資源循環）意識の向上（参考）

アプリ利用により過半数の参加者の活動モチベーション醸成に成功。また、次年度以降の継続意向は約7割。

アプリ利用による
活動モチベーションの変化



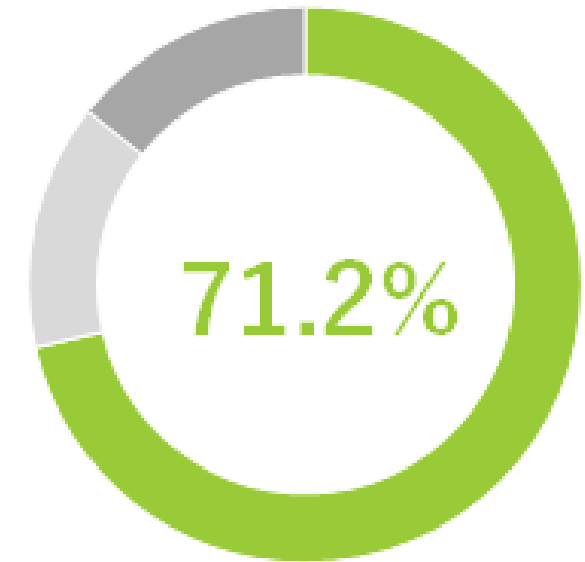
■ 向上した ■ どちらともいえない ■ 低下した

ガーデンに出向くきっかけになった
(40代・女性)

子どもが自らの活動をQRコードを
読み込んで記録する機会を得られるのは、
いい経験(40代・女性)

自分のアクションが可視化されることで
継続して取り組みたいとやる気が出た
(30代・女性)

実証実験への協力継続意向



■ 協力したい ■ どちらともいえない ■ 協力したくない

※(注) eco-wa-ring-Kawasakiアプリを利用したことにより、eco-wa-ring-Kawasakiプラットフォームへの参加モチベーションはどの程度変化しましたか。

※(注) 各問（参加モチベーションの変化について）でその回答理由を選んで理由を教えてください

※(注) 次年度以降の継続意向は参加入力の割合、今年もこのような関係構築を希望する機会、協力したいと思いませんか？

効果指標②：市民に対する環境（資源循環）意識の向上

活動実績と成果（広報・各社リリース）

活動実績と成果（広報・各社リリース）

電通グループ、持続可能な食料資源循環社会の実現実験に参画し、コミュニティ拠点型の新しいソーシャルエコノミーの構築を推進

活動実績と成果（広報）

LP (ランディングページ) による告知と誘因

オウンド・SNS・メディア露出各種活動

プロジェクトLP

【LP概要】
 ・プロジェクト紹介をベースにイベント告知、報告など随時情報を月2回程度更新。
 ・6月～12月150万PV
 月平均2100PV、男女比4:6

【Instagram公式アカウント】
 ・9月～12月 40投稿、1534リーチ
 (1月20日現在 48投稿、2336リーチ)
 ・フォロワー数95 (1月20日現在)

活動実績と成果（広報・プロジェクト啓発等）

掲載メディア

AGARA紀伊民報
アドバンストマスメディア
ASCII.jp
千葉日報
WEB興業
Primes
SDNmagazine
J-Castトレンド
GOLDPAY
Circular Economy Hub
梅田経済新聞
TAKI BLOG
WEB電通報
Cococolor
TeamSDGs
ELEMINIST
TVK

- 日本経済新聞等のメディア（約30媒体）に活動内容の告知を実施。
- イメージ動画を川崎市YouTubeチャンネル（約1000回再生）、市内のビジョンで公開（想定リーチ数10万人）。
- ELEMINIST/Cococolor/TeamSDGsなどSDGs系のWebメディアで活動紹介記事を連載。

（参加者550世帯と）30万人への情報訴求、という目標に対し、
300万人以上※の市内外の人へ情報訴求を達成。
 ※掲載メディアの内、最もリーチ数が多い日本経済新聞（全国版）の数値を提示

効果指標③：食循環（食品リサイクル）の自走機会の創出

LFCが推奨する人財育成、次期リーダーを育成することで市民の自発的な栄養循環の創出を図る。
講座実施回数および講座後の感想アンケート調査等

<実施内容①：講座（参加人数計）>

- ・初めてのコンポスト講座：参加人数32名
- ・秋植えのためのzoomや小規模菜園イベント：28名
- ・堆肥の相談回収会 / 個別フォロー：10名



<実施内容②：LINEコミュニティ運営>

<東急>

- ・お世話日数 のべ数：101日（111名）
- ・LINEコミュニティやりとり のべ数：1055コメント
- ・コミュニティ内画像 のべ数：457枚

<王禅寺>

- ・お世話日数 のべ数：64日（64名）
- ・LINEコミュニティやりとり のべ数：609コメント
- ・コミュニティ内画像 のべ数：260枚



<参加者からの声（一部抜粋）>

- ・LINEで交流しながら、コロナの我慢生活の中お世話にいくのを楽しませていただきました。コンポスト生活は今後も続けていきます。
- ・コンポストの活用、野菜育成のイロハを学べて本当に良かったです。今後も色々と育ててトライしようと思います。
- ・行くたびに成長する姿を見たり、土をいじると仕事や家事の疲れも取れて癒されました。子供達と楽しく活動できました。参加させていただき感謝です。また続いて欲しいと思っています。

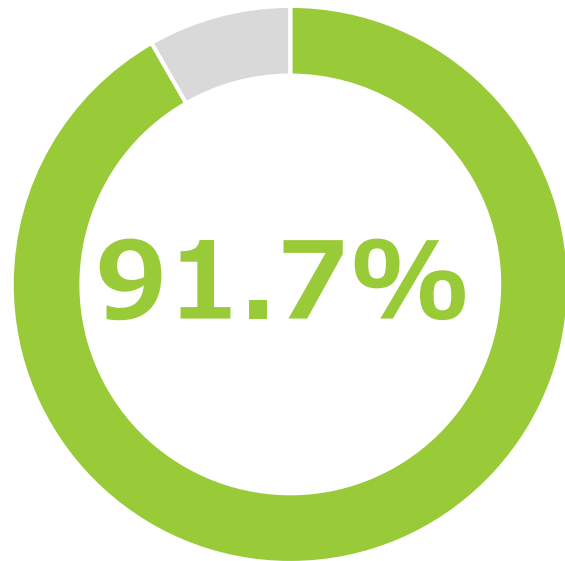
効果指標③：食循環（食品リサイクル）の自走機会の創出

プロジェクトの他者への推奨度は9割超、継続参加意向は7.5割。 継続意向が無い参加者についても、コミュニティガーデンのアクセスに懸念を持つ参加者が多く、会場や参加者の選定で改善可能。

継続意向度 / 他者推奨度

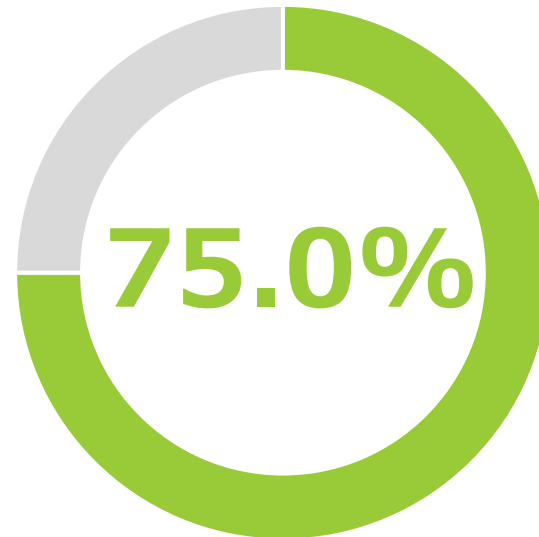
継続したいと思った理由

他者への推奨度



■ 思う ■ どちらともいえない ■ 思わない

継続参加の意向度



■ 参加したい ■ どちらともいえない
■ 参加したくない

コンポスト 経験

継続したいと思った理由を教えてください（自由にお書きください）

- | | |
|----|---|
| なし | 水やりなどのお世話にあまり出向けず、他の参加者さんに対しての心苦しさがあった。コンポストや家庭菜園など自宅で可能な部分での継続ができたらありがたい。 |
| あり | 自宅から徒歩圏内であれば継続したいです！ |
| あり | 交流する機会が増えれば参加したい |
| なし | 想像していたよりも自宅の生ごみが減ることに驚いた。環境への貢献を実感しながら、意識の高い方々と一緒に活動を続けられるのはとても有意義だった |
| あり | 楽しかったしもっと学びたいと思うから。 |
| なし | たまたま通いやすい場所だったので頻繁にお世話に行くのも苦では無かったし、子供達と一緒に作物のお世話をして、成長を見守る事が出来たし家族みんなで楽しい時間を共有する事が出来たから。 |
| なし | コンポストは継続していきますが、農園の方は車で行かなければならないので、遠慮したいと思います。 |
| なし | 参加可能なものであれば是非参加させていただきたいです。 |

設問) このプロジェクトが今後も継続される場合、友人や家族にどの程度お勧めしたいと思いますか？

設問) このプロジェクトが今後も継続される場合、継続して参加したいと思いますか？

※参加者への実施後アンケート（調査期間：1月20日-26日）

設問) 前問（今後の継続参加意向について）でその選択肢を選んだ理由を教えてください（自由にお書きください）

効果指標④：資源循環活動を軸とした地域コミュニティの創出および活性化の促進

ランディングページ（15018PV）、インスタグラム公式アカウント（1534リーチ）を開設し、継続的な広報発信を実施した。

【LP概要】

- ・プロジェクト公式の情報発信場所として、プロジェクトのコンセプト、概要と詳細、参加方法と問い合わせ先を固定で掲出。協賛者である川崎市のHP、エレミニストページからの流入先、メディアからの検索先としてプロジェクト概要を常時発信することができ、プロジェクトに興味関心を持った人たちの受け皿とした。
- ・イベント告知・報告など臨時情報を、「お知らせ欄」として月2回程度更新。（6月～12月で10回更新）常にニュースを発信することで、市民や参加者の興味関心を継続して引き付けることに成功した。
- ・6月～12月15018PV 月平均2100PV 男女比4:6 /問い合わせ数18



【インスタグラム公式アカウント概要】

- ・9月インスタグラム公式アカウントを開設。イベント告知、活動報告に加えて、コンポストや循環ライフを啓蒙する情報を一般の方の目線で発信。プロジェクトについてタイムリーな情報発信ができ、活動を幅広く告知することができた。
- ・インスタグラムのメディアの特性上、コンポストや地域での循環ライフに親和性の高い人々のコミュニティとの関係を深めた。
- ・9月～12月 40投稿 1534リーチ（1月20日現在 44投稿 2336リーチ）フォロワー数95（1月20日現在）



⇒PRなどのメディアに加えて、自身で情報発信の場を持つことでタイムリーな情報発信が可能になり、地域の人々との関係を継続、強化することができた。

効果指標⑤：協賛および協力企業の参画を目指す

当事業への関りを個人だけでなく、企業および組織にも参画機会を拡大することで、当事業の規模拡大および活動の費用圧縮を狙う。**30社以上**を目標に当事業について説明し、理解醸成。

● 説明実績

全191社への活動内容の説明を実施

※川崎市外の企業・自治体も含む



● 来期以降での取り組み意向あり (22年2月15日時点)

10社程度

※川崎市外の企業・自治体も含む

- ① 事業概要
- ② 活動実績と成果
- ③ 活動の効果測定
- ④ 総括

総括と事業終了後の展開

課題と機会を検証した結果、After(With)コロナを踏まえ当該施策は継続させることによって地域コミュニティに自活型と共助型のフードサイクルを根付かせる事が可能ではないか、と考えます。

継続可能な理由と対応強化点の整理

① 当活動への期待値の高さを実感

参加意欲が高い市民・企業への活動周知を行い、東急および王禅寺の2つの拠点で自活型フードサイクルコミュニティ形成活動を実施。1年の活動を経て、当活動への期待が高いことを実感。しかし本年はコロナ感染拡大リスクに伴い多くの活動規制があったため、不十分な活動となってしまった。潜在ニーズを改めて探り、その期待に沿った企画、拠点設置などを実践して「自走」の仕組みを形成できる可能性を秘めている。

② 自活型と共助型共にサイクルを回せる可能性が大きい

事業目的の共感是非常に多いと感じたが、まだ始めたばかりであり、認知度が低く、参加者・参加企業の獲得機会を逸してきたと考えられる。さらに認知度を広げ、生活仕様に合う共感とメリットを享受できるような課題払拭を図る事により参加者拡大に期待が持てると思う。

③ 参加ニーズを取りこぼさない仕組みの設計

参加ニーズは様々な箇所が存在するが、受入れ体制、施設の関係で参加条件が限定的になりがちの為、既存の自活型、共助型に加えた、新たな仕組み設計を行う事により更なる参加感を創出していく。

“きっかけ”と“場所”が提供できれば自主的な参加が期待できることが実証された。
今後は事業者主体で実施できる取り組みは事業者主体で行い、行政（川崎市）は広報支援として機能していく。